

30円鳳凰堂貼りの商品見本航空便

永吉 秀夫

1959年4月1日に発行された「30円鳳凰堂」は、この日に改訂された外信船便書状料金に合わせて、それまでの「24円鳳凰堂」の額面と刷色を変更して発行された普通切手です。しかし他にもいろいろな使い方ができました。250号では2枚貼りの「第3地帯あて航空葉書」を紹介しましたが、今回も2枚貼りで商品見本便です。

この時期には、国際郵便にだけ存在するさまざまな郵便種別がありました。商品見本は大昔から存在した種別ですが、この時期には船便、航空便とも印刷物と同額料金が適用されていました(その後1971年の料金改定時に廃止)。米国など第2地帯あての航空便料金は20gごとに30円でしたから、2枚貼りのこの郵便物は、2倍重量ということになります。

料金は印刷物便と同額ですが、写真のように通関シールが貼られているのが普通です。米国あての印刷物便は比較的ありふれています。このようなシールの貼られている商品見本便は、なかなか魅力的です。シール部分の拡大写真も、ついでに載せておきましょう。



TOKYO 1960.3.11 → 米国